

余談ですが：台風は、来る来ると言われながら速度がとでも遅く、(それはそれで大会運営にはよかつたのですけど) 大会終了の翌日昼頃から本降りになつてきました。街中に行くと、雨は土砂降りですがさほど台風のすごさを感じず、1日何をしようか：などと思つておりました。しかしTVで大会会場のそばを流れている川が氾濫したとか避難勧告が出たというニュースが流れるとちよつと緊張がありました。ホテルの前の大きな交差点から車が通るたびにザブザブと音が聞こえてくるようになり、9Fの窓から眺めると小川のように流れ始めていました。まさか9Fまでは水は来るまい。ただひたすら通り過ぎるのを待つばかり…。

そして9月18日(月)

帰郷の日、空港は大混乱。ANAは長蛇の列で疲れた顔の各県の選手達が順番を待っていました。会長と私たちはJALだったためほとんど遅れることなく東京へと飛び立つことができましたが、選手とコーチ監督達は陸路で帰るため大変でした。当初電車で：のはずが途中の線路が冠水し代替え

のバスで岡山へ。乗り継ぎの新幹線へ間に合わずだいぶ遅れて東京へ到着しました。(東京など数県チームは2日目レース終了後即帰郷したと聞きましたし、国分トレーナーもその日のうちに九州へと帰つていきました。) 応援に来ていた田中競技部長も長距離バスに急遽乗り換え早朝旅だつていきました。

大会はレースだけでなく移動も勝負だなぁと痛感した今年の国体でした。

道後温泉みかん石けん事件や山本会長との松山城珍道中など、楽しいお話、美味しいお話もたくさんありますが、詳しくは個人的に金澤まで：おしまい。



オープンウォーター

寺田 拓未

14位 男子5Km 1:05.32.7

鈴木 冬乃

31位 女子5Km 1:16.14.5

金澤昭恵 = 文・写真



シンクロ

秋山 美咲・白土 まほ

19位 127.1635

フリールーティン 65.6667

テクニカルルーティン61.4968

第72回愛媛国体を終えて

シンクロ委員長 矢部由布子



今年には幸運に恵まれ、7年ぶりに国体に出場出来ました。有難うございます。国体は2人の競技者で行うデュエット競技のTR(テクニカルルーティン・規定要素あり)とFR(フリールーティン)の合計点で競います。規定要素は5つあり、1つ1つに採点が行われます。1箇所でも失敗すると即0点という評価になってしまいうエレメンツ点を持つTRは、普段参加する大会では行わないこともあり、また技術が稚拙な選手たちにはとても厳しい演技でした。7月末に行われた東北総体兼予選会では無難に演技をこなしましたが、得点は伸びず、2位での本選出場となりました。また、本年度の東北総体は福島県開催でありましたが、雨や雷などの悪天候の中行われることになり、選手たちには環境も過酷なものでした。

一転、国体本選は9月初旬であるというのに正に真夏日でした。どの競技より1番早く始まるシンクロ競技は、そろそろ日差しも気温も落ち着いてきたという愛媛運営部の言葉を裏切り、30度を超える炎天下の中行われました。はじめてのプール、しかも特設、そして屋外プールという環境の中、緊張もあつたようでしたが、最終的に選手たちは楽しんで演技を行うことができたようでした。東北総体からの約1か月半、主に泳ぎこみと完遂度を上げるために積んできた練習は見事実を結べたと感じました。得点も自己ベストのものがただで、満足して大会を終えることができたようです。

シンクロ競技の国体種目は少年女子のデュエット競技のみのため、本県選手の1人である高3の秋山は今大会が最初で最後となります。来年度以降、相方の中3の白土を含む後輩たちには期待できるような演技をしてもらえるように、今後も継続して指導していきたいと思っております。みなさま応援ありがとうございます。

郡山開成山屋内水泳場オープン

誇らしい気分です！



熱気・感動・感謝！

観客席を含めた会場の一体感がとにかく凄い！これはぜひ体験してください。そして、天気や気温を気にすることと競技中に空を見上げることがなくなり、安心して大会を開催できるようになりました。

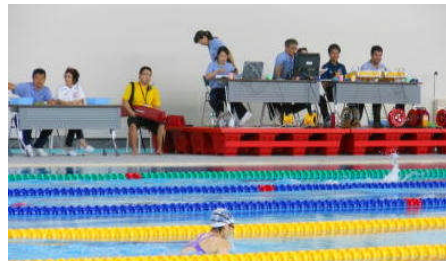
競技進行・審判長

田中 潔（県南）

先日、郡山開成山屋内水泳場で機械操作を担当しました。最新の機械と2系統の配線により、主操作回線とバックアップ回線がそれぞれ単独で繋がっており、安心して操作することができました。スクリーンへの表示操作等、まだ不慣れなところもありますが、少しずつ慣れていきたいと思えます。

機械操作

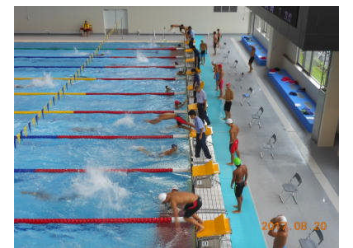
岩沢 巖（会津）



ワクワク？ドキドキ？



初めて郡山しんきん開成山プールに入ったとき、「いよいよ福島県にもこのような立派なプールができたか。」ととても誇らしい気持ちになりました。私が縁あって水泳に携わるようになったのは、震災後2年目からでした。現在は平工業高校で勤務していますが、生徒を東北大会へ引率するたび、他県には屋内の立派なプールがあってうらやましいな、という想いをいつも感じていました。私のような新参者ですが、そのような想いがあったのですから、長年携わっていた先輩方の想いは推して知るべしでしょう。いろいろな方々の思いが詰まった念願のプールがついに完成したのだな、と人知れず感動していました。



私は主に高体連の大会で召集所を担当しています。係の仕事をしていて気にしなければならぬことは、ゲリラ豪雨のような急で激しい天候の変化です。これは選手にも運営側にも大きな影響を与えますので、その心配がなくなることはとても大きな負担の軽減になりました。開成山での大会運営はまだまだ手さぐり状態ですが、選手にとっても競技役員にとってもわかりやすく、スムーズな動線を確立できるよう、知恵を出しあいながらこれからも運営に携わっていきたいと思います。

最後になりますが、選手の方皆さんにも、福島県にはこんな素晴らしいプールがあるのだと、誇りに感じてもらいたいです。そしてその立派なプールに負けないくらい、水泳を通じて立派な人物になってもらいたいと願っています。

召集主任

齋藤陽介（いわき）

（写真・星久夫氏・郡山市民体育祭より）